

取扱説明書

2021.02

Bau690

仲山鉄工株式会社

TEL : (054)635-1383

FAX : (054)635-0418

UR : <http://www.nakayama-azz.co.jp>

E-mail : info@nakayama-azz.co.jp

初回発行日：2017.03

改定日：2021.02

乾式専用コンクリートカッター Bau690

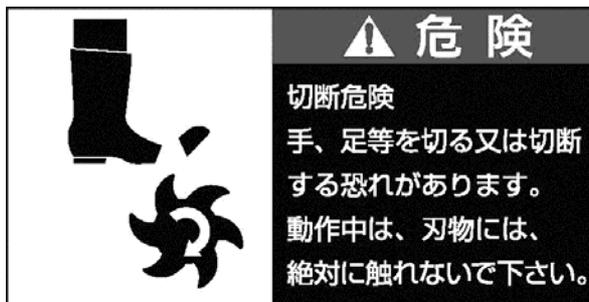
<目次>

Bau690 使用について	1
厳重注意事項	1
機械を動かす際の確認作業	1
可燃・引火・爆発の危険性への注意	2
排ガス（一酸化炭素）中毒や酸欠事故をおこさないために	3
ブレード・ブレードカバーについて	3
安全な作業をするために	3
機械吊り上げについて	3
傾斜地での使用について	4
フランジナット・スペーサー	4
保障規定	4
操作要項&各部名称	5
コントロール部	5
メーターパネル部	9
Bau690 点検リスト	11
作業前・作業後点検	11
定期点検・交換目安	12
オイル 一覧表	12
ベルト 一覧表	12
エンジンオイル	13
エンジンオイル抜き方	13
エンジンオイル入れ方	14
オイルフィルター交換	15
グリスアップ箇所	16
ベルト交換手順	17
メインベルト（3VX400）交換手順	17
走行ベルト（AX39）交換手順	18
カウンターベルト（3VX425）交換手順	18
ブロアーヒラベルト（25FL1060）交換手順	19
チェーン	20
デプスストッパー調整	21
粉塵の取り出し・集塵袋の交換	22
集塵機フィルター取外し方	23
仕様書	24

Bau690 使用について

1 < 厳重注意事項 >

- (1) 本製品は**乾式専用**です。路面や切り溝等が濡れている場合は、使用しないで下さい。
- (2) 保管及び稼働は第三者が接近しない場所を選んで行ってください。
- (3) 周囲への安全確保の為、下図の「一般安全警告記号」がブレードカバーに示されている事を始業前に確認して下さい。



- (4) ブレードが回転中、ブレードカバー横の蓋及び後方のぞき窓を開けないで下さい。
- (5) 弊社に無断で改造をしないで下さい。
- (6) シフトレバーを手動に入れると、走行ミッションがニュートラルに入ります。その為、坂道などでシフトレバーを触ると本機械が転がり落ちて大きな事故や怪我につながりますので、**角度の付いた場所ではシフトレバーを触らないで下さい。**
- (7) エンジン稼働中にボディーカバー開口部や網目部に、手や指などを入れると大変危険です。尚、エンジン吸気口部に異物が吸い込まれない様ご注意ください。
- (8) 切断中、本機を無理に押し込んだりブレードに負荷がかかると車体が浮き上がり、後ろに下がる事があります。切断中は、無理に押し込まず安全に作業を行って下さい。
- (9) 切断中は、必ず**デフロックをON**にして使用して下さい。
- (10) 傾斜地で本機を使用すると、機械の破損や重大な事故に繋がる可能性があります。**傾斜地の使用はできません。**

2 機械を動かす際の確認作業

狭小地で本機の移動・作業・メンテナンスなどは大変危険です。広い場所・作業周辺及び機械の状態の安全が確保されている事を確認して実施して下さい。

(1) エンジン始動時

- ア パーキングブレーキが掛っている事を確認
- イ 平坦地であるか確認
- ウ シフトレバーを手動レンジに入れる
- エ 前後進レバーを中立にする
- オ 周囲の安全（可動・回転部分への接触・接近による事故防止、換気など）を確認

(2) 本機から管理者やオペレーターが離れる場合

- ア 平坦地であるか確認
- イ 前後進レバーを中立にする

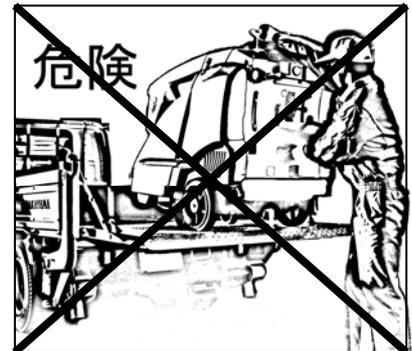
- ウ パーキングブレーキを掛ける
- エ シフトレバーを切削レンジに入れる
- オ エンジンを停止し、エンジンキーを抜く
- カ メインスイッチを OFF にする

(3) 移動作業時

- ア 切削区域以外での移動時は機械からブレードを外す
- イ 傾斜地での運転は控える
- ウ 走行中・傾斜地でのシフトレバーの操作はしない

(4) 機械の積み下ろし作業

- ア ブレードカバー・ブレードは必ず外しておく
- イ 必ず平坦地で行う（坂道での作業は非常に危険です）
- ウ 右図のように機械の後ろ（操作盤正面）には立たない（ゲートの上に機械があるときはカッターの横から作業するようにする）
- エ パワーゲートの昇降は必ずエンジンを停止、シフトレバーを切削レンジ、ブレーキを掛けた状態で実施。また、日常からブレーキの点検を心がける
- オ パワーゲートの端部に落ち止めストッパーを設ける
- カ パワーゲートの経年劣化による垂れを改善（平坦地でカッターをパワーゲートに載せただけで下り坂の状態になっているのは非常に危険です）
- キ パワーゲートに機械を載せたままで車の移動をしない



(5) 作業終了後

作業前や作業終了後に定期的に点検整備を行って下さい。詳細に関しては本誌の点検整備項目をご覧ください。なお、作業終了後すぐは機械が大変熱くなっているためご注意ください。異常が見つかった場合は速やかに使用を中止し、整備を実施して下さい。

3 可燃・引火・爆発の危険性への注意

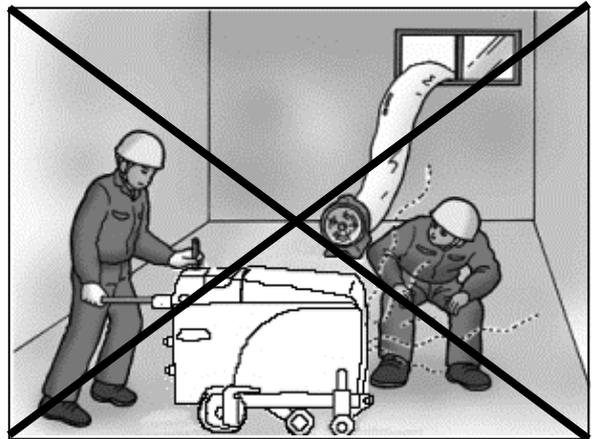
- (1) 給油作業は換気の良い場所で車体を水平にして、エンジンを停止してから行って下さい。
- (2) 給油中はタバコの火や他の火種になるものを近づけないでください。また静電気が発生しないようご注意ください。
- (3) ガソリンがこぼれないよう十分気をつけてください。万が一こぼれた場合は速やかにふき取って下さい。
- (4) 給油後はキャップを確実に締めて下さい。
- (5) マフラーなど高熱となる付近にガソリン・オイル・紙・わらくず等の可燃・引火の恐れのある物を近づけないようご注意ください。
- (6) 機械からの排気熱により周辺を変色させる、植物を枯らせてしまうなどの危険性にも配慮して作業を行ってください。

4 排気ガス（一酸化炭素）中毒や酸欠事故をおこさないために

トンネル内や室内等の閉鎖空間で、エンジン式コンクリートカッターを使用すると一酸化炭素中毒になる恐れがあります。健康に重大な障害をもたらすばかりか、死亡する恐れがありますので、閉鎖空間での使用はおやめ下さい。（暖気運転中でも危険は変わりません、エンジンを作動させていれば、空間内の酸素を消費して、CO・CO₂を排出します。）

一酸化炭素中毒予防について厚生労働省「建

設業における一酸化炭素中毒予防のためのガイドラインの策定について」基発第三百二十九号平成10年6月1日、「労働安全衛生規則」などを参考にして下さい。



5 ブレード・ブレードカバーについて

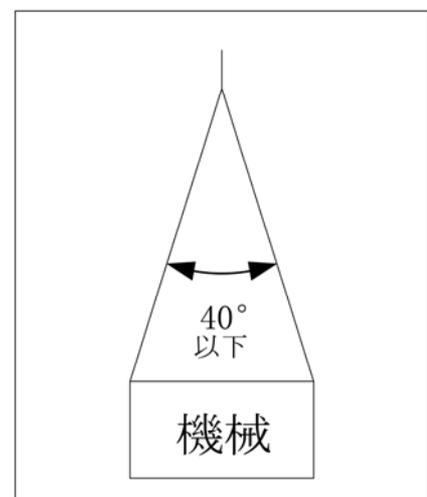
- (1) ブレード製造業者が提供した取扱説明書を参考して下さい。
- (2) コンクリートカッター用に設計されたブレードをお使い下さい。取り付け可能なブレード中心穴径は27mmとなっています。
- (3) 作業開始前にブレード（回転方向、回転数、ガタツキなど）、ブレードカバーの正しい取り付け状態である事を確認して下さい。
- (4) クラックやチップ飛び等、破損したブレードは使用しないで下さい。
- (5) 切削直後、ブレードカバーが熱を帯びています。取扱いに注意して下さい。

6 安全な作業をするために

- (1) 作業しやすい清潔な服装を着用する。
- (2) ヘルメットを着用する(あご紐をしっかり締める)。
- (3) 手袋・安全靴・防塵マスク・防護メガネを着用する。
- (4) 安全チョッキ(夜間は蛍光性の物)を着用する。

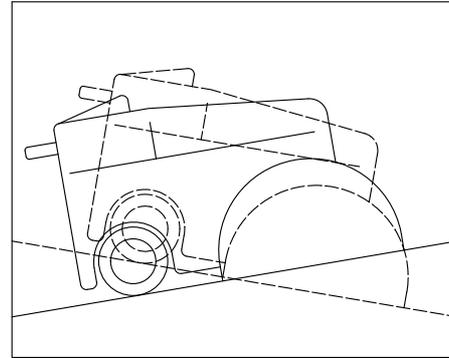
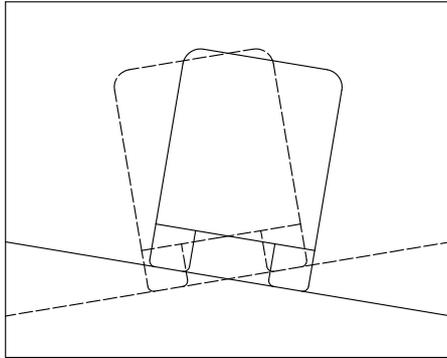
7 機械吊り上げについて

- (1) ワイヤロープ等で機械を吊り上げる際、ワイヤロープの角度を40度以下にするようお願いします。
- (2) 無理な吊り方や不安定な吊り方をすると、機械の破損・重大な事故に繋がる可能性があります。おやめ下さい。

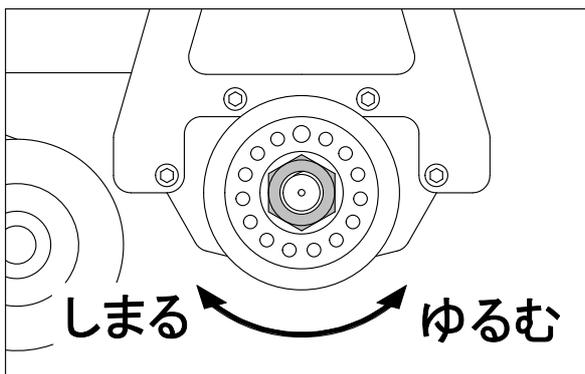


8 傾斜地での使用について

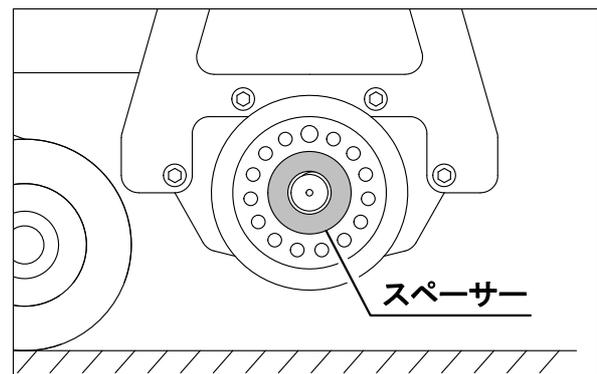
傾斜のある場所で本機を使用すると、エンジン油圧低下、エンジンオイル持ち出しなどの不具合が生じます。最悪エンジンの焼き付き等の破損の原因になります。



9 フランジナット・スペーサー



Bau690は、アッパーカット切断方式です。
 フランジナットを緩める時：左に廻す
 締める時：右に廻す



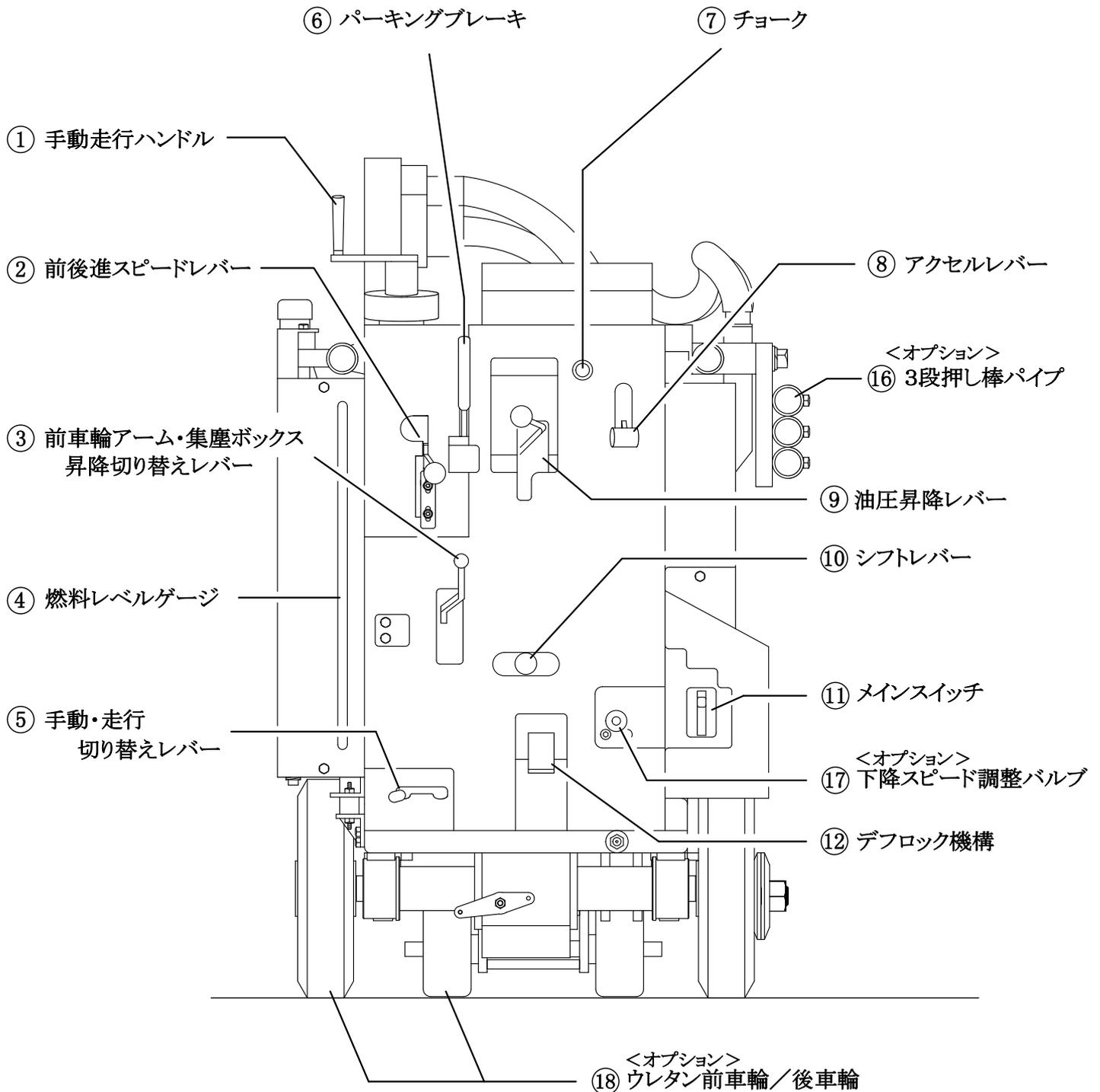
• ドライフランジアウターにスペーサーが付いています。使用するブレードの厚さにより、スペーサーを抜いてご使用になれます。

10 保障規定

- 弊社コンクリートカッター最初のご購入者に対し、品質上又は製造上の欠陥と確認できた場合は製品お渡し日より6ヶ月間は、部品交換及び修理を弊社負担とします。ただし、ベアリング・ベルト等消耗品は保障規定外となります。
- エンジン及びエンジン部品につきましては、エンジンメーカーの保障規定に従うものと致します。保障を得るための購入日の根拠として、ご購入の納品書もしくは受領書を保管して下さい。

操作要項&各部名称

コントロール部



① 手動走行ハンドル

⑩シフトレバーが手動レンジ、⑥ブレーキが解除、⑤手動・走行切り替えレバーが右にある状態で手動での移動が可能になります。ハンドルを右に廻せば前進、左に廻せば後進します。廻送での移動、切削スピードが速い場合は危険ですので手動ハンドルをフリー（⑤手動・走行切り替えレバーが左にある）の状態で作業して下さい。

② 前後進スピードレバー

レバーを上げれば前進、下げれば後進します。レバーを倒す角度でスピード調整できます。

③ 前車輪アーム・集塵ボックス昇降切り替えレバー

レバーが下側の状態で⑨油圧昇降レバーを上動かすと集塵ボックスが上がり、下に動かせば集塵ボックスが下がります。車体の昇降をする場合はこのレバーを上側にして下さい。

④ 燃料レベルゲージ

燃料の量を確認できます。無鉛レギュラーガソリンをご使用下さい。ガソリンの取扱い及び注意事項を厳守して安全に給油作業を実施して下さい。

⑤ 手動・走行切り替えレバー

レバーを右に入れた状態、⑩シフトレバーが手動レンジの状態で①手動走行ハンドルでの操作を可能にします。廻送での移動、切削スピードが速い場合の①手動走行ハンドルの回転は危険です。①手動走行ハンドルをフリー（レバーを左に入れる）の状態で作業して下さい。

⑥ パーキングブレーキ

レバーを引けばブレーキが効き、押せば解除されます。ブレーキが効いた状態で走行すると走行装置を損傷する場合があります。機械から人が離れる場合、停車時などは必ずブレーキを掛けて下さい。緊急時（坂道で車体が急に走り出したなど）に走行を瞬時に停止する必要がある場合はブレーキレバーを素早く引き、車体を停止させて下さい。ブレーキの掛りが悪いと大変危険です。定期的に点検・整備を行って下さい。

⑦ チョーク

エンジンが冷めている時又は外気温が低い時にエンジンスタートを補助します。

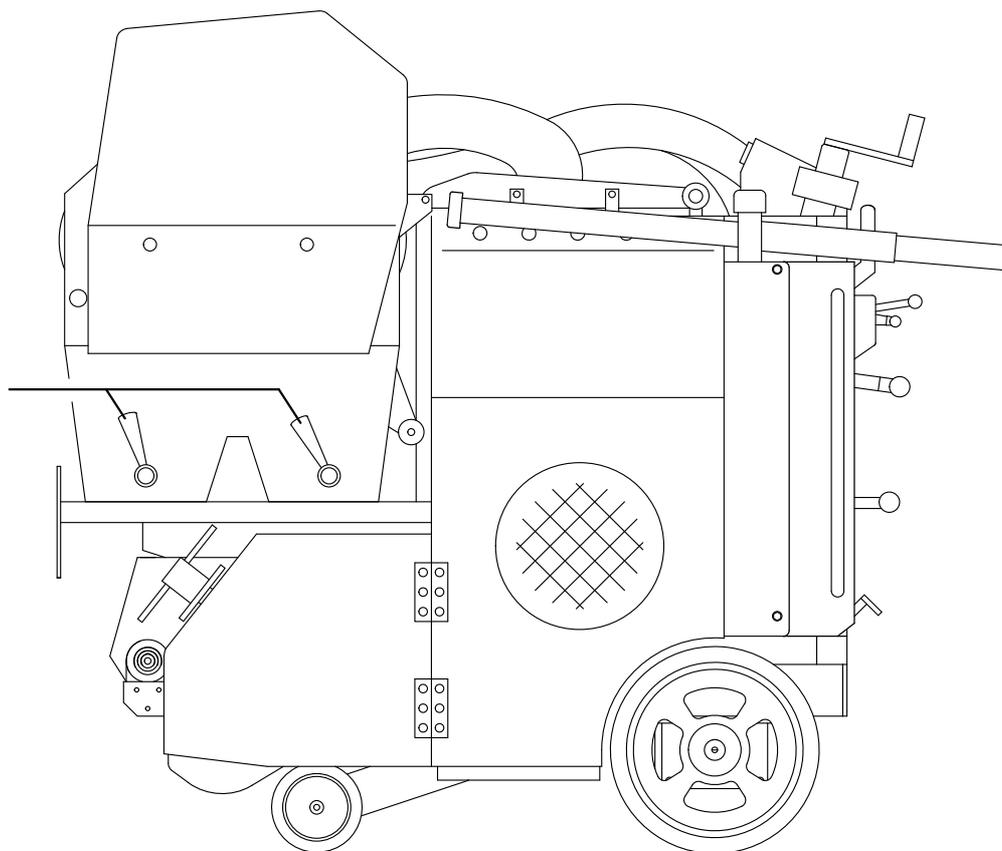
⑧ アクセルレバー

エンジンの回転数を調整します。回転計でエンジンの回転数を確認し適正な回転数で作業を行って下さい。エンジン始動・停止作業は、必ずアイドルリング状態で操作して下さい。

⑨ 油圧昇降レバー

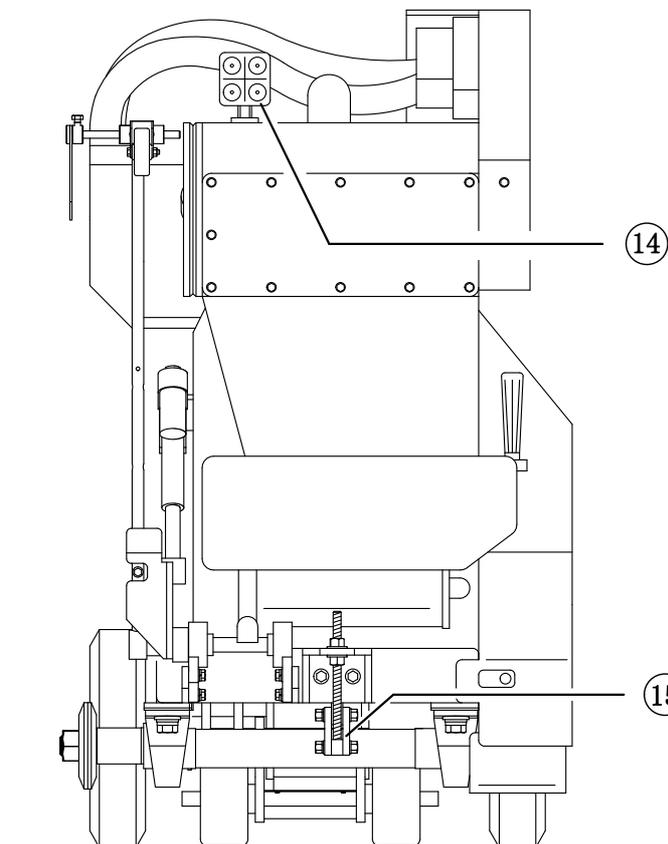
車体を上下させるレバーです。レバーを上動かすと車体は上がり、下に動かせば車体は下がります。

⑬ 集塵ボックス
シャッター開閉レバー



⑭ LEDライト

⑮ デプスSTOPパー



⑩ シフトレバー

廻送／手動／切削 シフトレバーを使用するレンジに合わせて下さい。
シフトレバーの操作は②前後進レバーを中立にし、⑥パーキングブレーキを効かせて車体の走行を停止して行って下さい。
走行中・傾斜地でのシフトレバーの操作はしないで下さい。

⑪ メインスイッチ

ONの時はエンジンが停止していても油圧昇降レバーやゲージスイッチは、作動します。OFFの時はエンジン及び電気を要するレバーやスイッチは、作動しません。本機から離れる時は、スイッチをOFFにしてください。

⑫ デフロック機構

デファレンシャルを一時的にロックする装置です。
レバーを引き上げるとデファレンシャルを解除し、下げるとデファレンシャルが効きます。
左右の車輪の駆動状態に関係なく、常に同じ回転速度で双方の車輪を回転させ続けるため片輪が浮いた状態、滑りやすい路面でも駆動力を伝え、進行が可能になります。
車体の旋回など左右の車輪の回転差動を要する場合には解除して下さい。

⑬ 集塵ボックスシャッター開閉レバー

集塵ボックス内に溜まった粉塵を⑬のレバーで底板を開け、下の袋に落とします。集塵ボックス底板は、必ず閉めて切削作業をして下さい。

⑭ LEDライト

マグネット式取付のため、使用者のお好みの位置・角度でご使用になれます。
ライトの配線に負担の掛らないよう注意して下さい。

⑮ デプスストッパー

ナットを調節することで車体の降下位置(ブレードの切込み深さ)を一定に保つ事ができます。エンジンを停止した状態でデプスストッパーの調整を行って下さい。

⑯ 3段押し棒パイプ <オプション>

押し棒を差し込む位置により高さを変える事ができます。

⑰ 下降スピード調整バルブ <オプション>

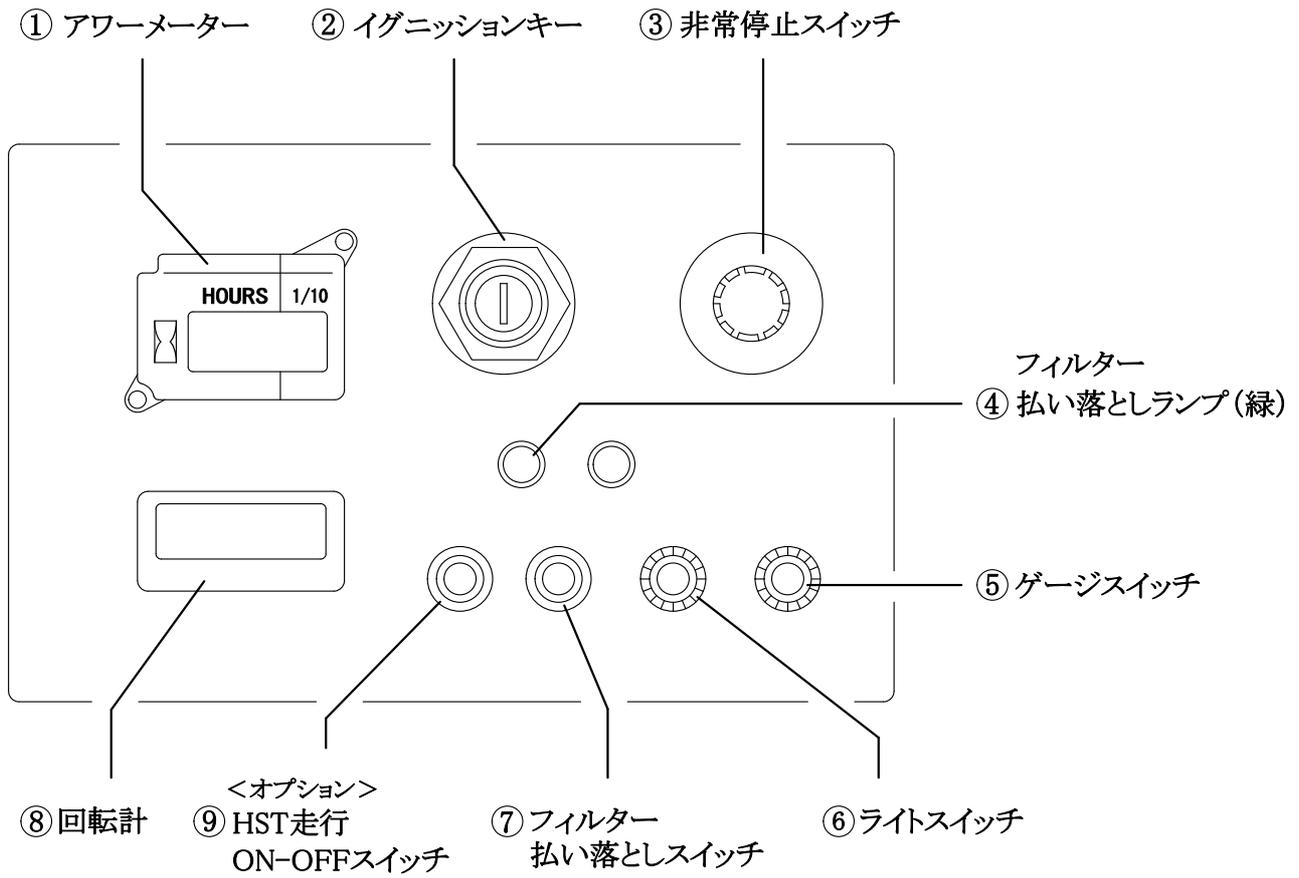
バルブの調整により車体の下降スピードを変える事ができます。

⑱ ウレタン前車輪／後車輪 <オプション>

車輪の跡が残りにくくなります。

操作要項&各部名称

メーターパネル部



① アワーメーター

イグニッションON又はエンジン作動中の時間を計測

② イグニッションキー

③ 非常停止スイッチ

事故発生の恐れがある場合などに押せばエンジンが停止します。
スイッチを右にまわせばロックが解除されエンジンの再始動ができます。

④ 払い落としランプ（緑）

集塵ボックスフィルター自動払い落とし機構が作動中に点灯

⑤ ゲージスイッチ

切削ラインを示すガイドを動かすスイッチ
ガイドの先端にロープを結んでおけば緊急時に手で引き上げる事もできます。

⑥ ライトスイッチ

このスイッチで全ての位置のライトを点灯させます。

⑦ 集塵ボックスフィルター自動払い落としスイッチ

エンジン停止中に、集塵ボックスフィルター自動払い落とし機構を単独で作動させます。

⑧ 回転計

エンジン作動中のエンジン回転数を表示

⑨ HST走行ON-OFFスイッチ <オプション>

スイッチOFF : 前後進レバーの位置に関係なく走行を停止します。
スイッチON : 従前の速度で走行します。

Bau690 点検リスト

安全に作業をしていただくために、点検リストに沿って点検を必ず行って下さい。

作業前・作業後点検			
エンジン	点検箇所	点検項目	対応
停止中	ベルト	張り・破損・亀裂の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ベルトが緩い場合は張り直す ・破損・亀裂がある場合は交換する
	エンジンオイル	オイル量・汚れを確認	<ul style="list-style-type: none"> ・オイル量が少ない場合は補充する ・オイルが汚れていたら交換する
	エンジン エアークリーナー	詰まり・汚れの確認	<ul style="list-style-type: none"> ・エンジン上部に付いている蓋を開け中のフィルターを清掃をする
	ガソリン	ガソリンの量を必ず確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ガソリンの量が少ない場合は補充する
	ブレードシャフト	フランジ・ネジ部 汚れの確認	<ul style="list-style-type: none"> ・フランジ・ネジ部に粉塵や汚れがある場合は必ず清掃する
稼働中	ベアリング	固着・異音がないか確認	<ul style="list-style-type: none"> ・固着、異音がある場合は交換する
	ピローブロック	ガタツキ・異音がないか確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ガタツキ、異音がある場合は交換する
	バキュームユニット	吸い込みの確認	<ul style="list-style-type: none"> ・吸い込みが悪い場合はベルトを張り直す
稼働中	ブレード	破損がないか確認	<ul style="list-style-type: none"> ・破損したブレードは使用しない
	パーキングブレーキ	正常に効くか確認	<ul style="list-style-type: none"> ・正常に効かない場合は直ぐに整備する
	集塵袋	穴・粉塵の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・穴、粉塵がある場合は交換する
	集塵フィルター	フィルターに残った粉塵を落とす	<ul style="list-style-type: none"> ・作業前又は作業後に払落しスイッチを入れ空運転しフィルターの清掃をする

※ エンジンを稼働しての点検は危険です。十分注意して行って下さい。

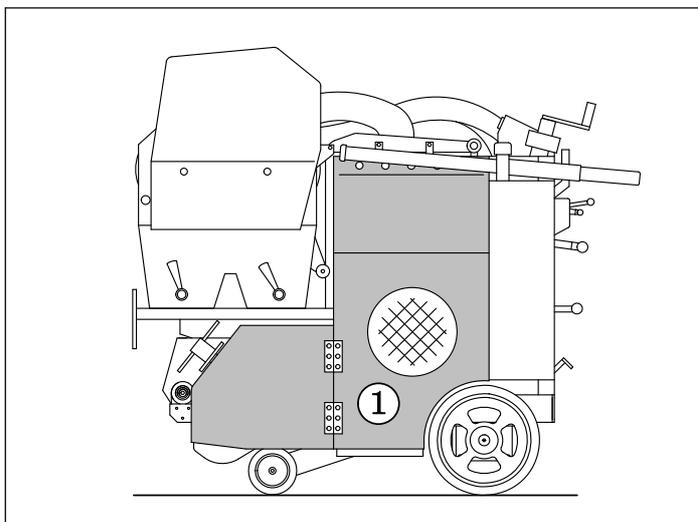
定期点検・交換目安		
点検箇所	点検項目	点検・交換目安
ガソリン	水抜き	・月に1回を目安にガソリタンク下のドレンから抜く
エンジン	エンジンオイル	・50時間毎交換
	オイルフィルター	・2ヶ月又は100時間毎交換
集塵ボックス	集塵フィルター	・稼働時間100時間毎点検
ブレード軸ピローブロック	グリスアップ	・30時間 毎
前車輪アームピローブロック		・200時間 毎
前車輪アーム軸		・100時間 毎
カウンター軸ピローブロック		・30時間 毎
油圧ホース 電装線	経年劣化・変質・破損	・5年を目安に交換をお勧めします
チェーン	張り・破損	・50時間 毎

オイル 一覧表	
エンジン	エンジンオイル SAE10W-30 相当品 1.4ℓ フィルター同時交換 1.6ℓ
HST	エンジンオイル SAE10W-30 相当品 350ml
走行ミッション	ギヤオイル 80W-90 相当品 2.0ℓ
パワーユニット	ハイドロオイル ISO32 相当品 1.0ℓ

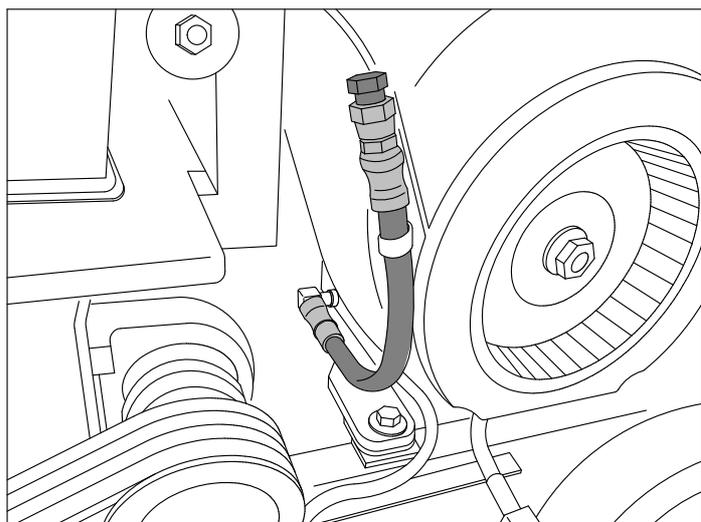
ベルト 一覧表			
カウンター出力プーリー	～	ブレードプーリー	3VX400 4本
カウンター入力プーリー	～	エンジンプーリー	3VX400 3本
エンジンプーリー	～	HST入力プーリー	AX39 1本
ブロアー			25FL1060 1本

エンジンオイル抜き方

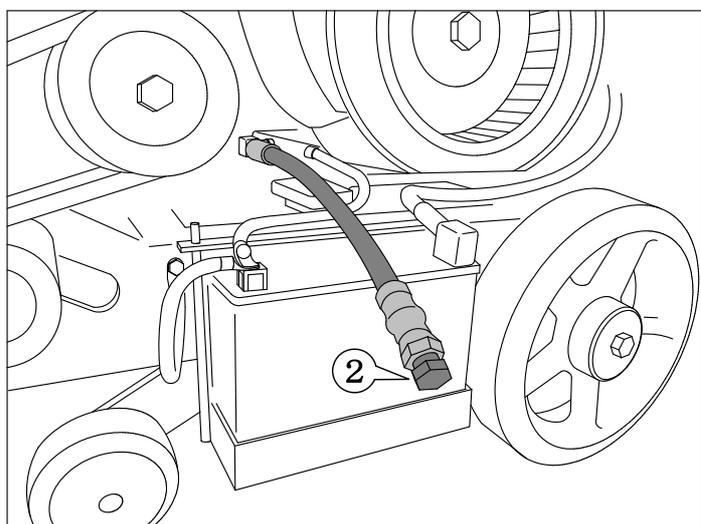
* エンジンが冷めている状態で作業して下さい



- ①部のボディサイドカバーを外す。



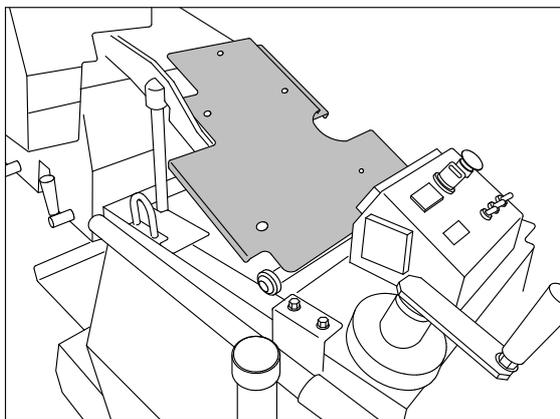
- エンジン前側にドレンホースがあります。



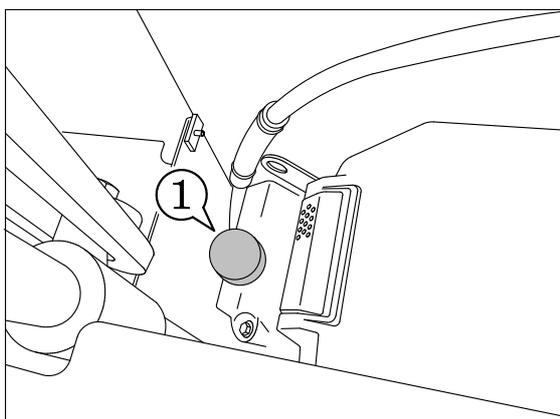
- 廃油を入れる容器を用意して、②部のめくら栓を外してエンジンオイルを抜いて下さい。

* エンジンオイルを抜くのに、約30～40分時間がかかります。

エンジンオイルの入れ方

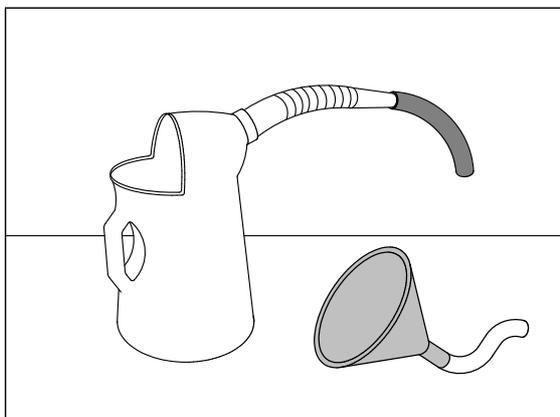


- 集塵ボックスをリフトアップさせます。



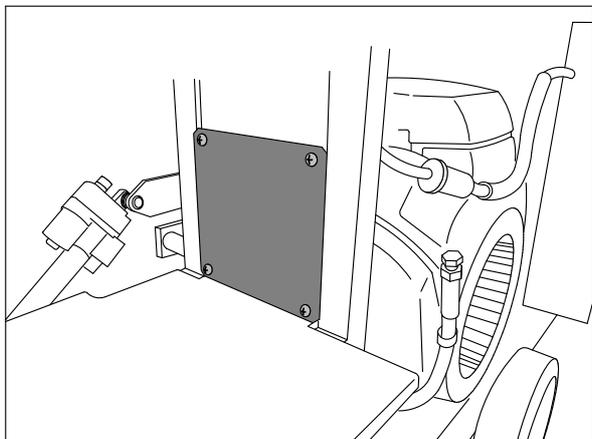
- エンジン前側①の所にオイルの注ぎ口があり、そこからオイルを適量入れて下さい。
- エンジン後側にオイルレベルゲージがあります。油量を確認して下さい。

※ オイルをこぼしてしまった時は、綺麗に拭き取って下さい。

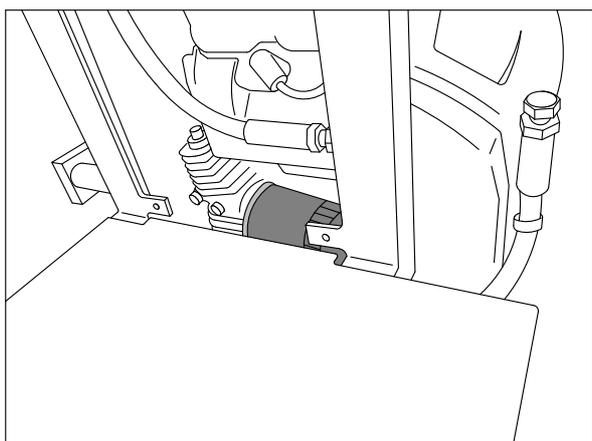


※ 工具箱の中にあるホースをオイルジョッキの注ぎ口に取り付けオイルを入れたり、ジョーゴを使用すると作業がしやすくなります。

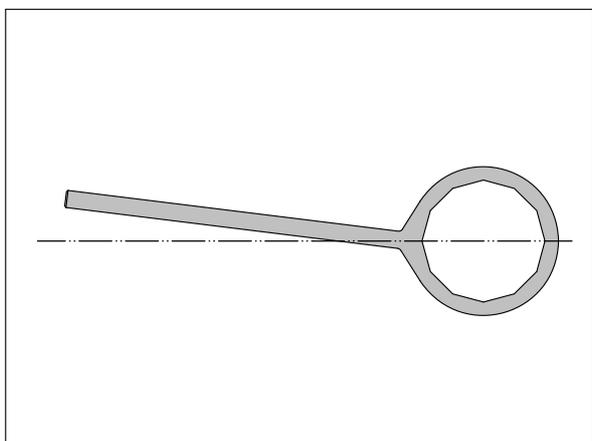
オイルフィルター交換



- 集塵ボックスをリフトアップさせます。
- 本機のフロントカバーを外す。

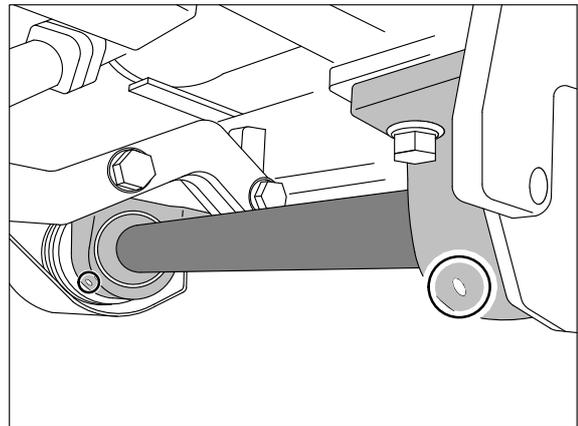
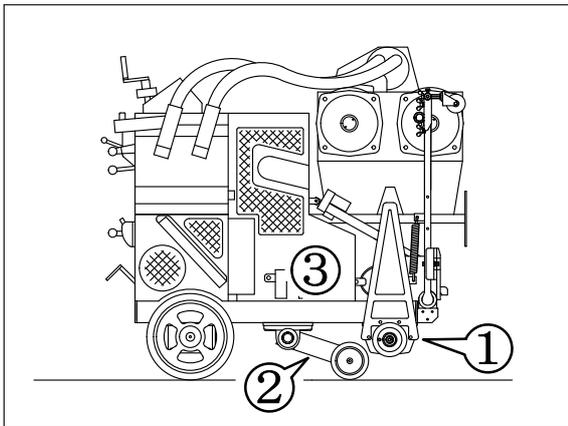


- エンジン前側にオイルフィルターが有ります。
 - 付属のフィルターレンチでオイルフィルターを外す。
- * フィルターを外す際、下側にマフラーの配管が有る為中のオイルをこぼさない様受け皿を置き注意しながら外して下さい。
(工具箱の中にオイルフィルター専用の受け皿が有ります。)

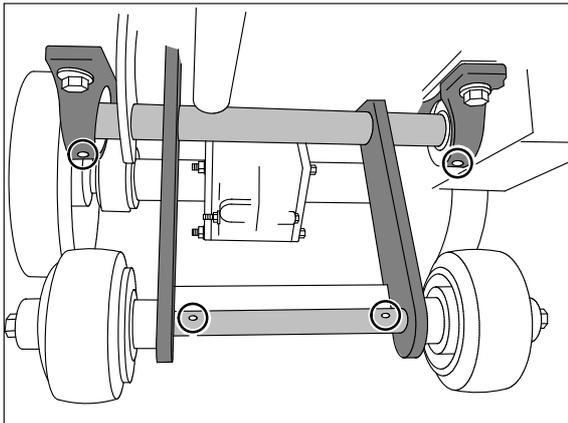
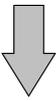


- * フィルターレンチを使用する時、表裏交互に差し込むとフィルターを廻す事ができます。

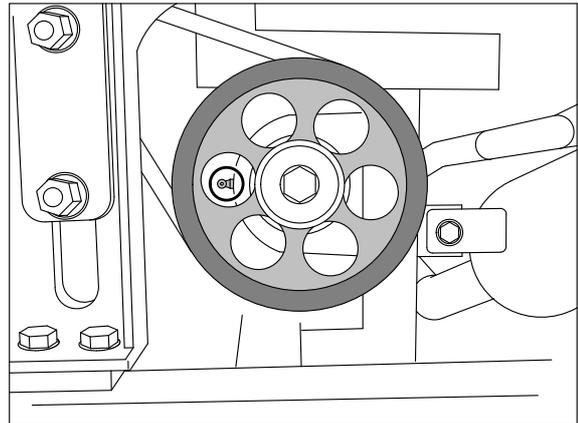
グリスアップ箇所



① ブレードシャフト部ピローブロック 2ヶ所

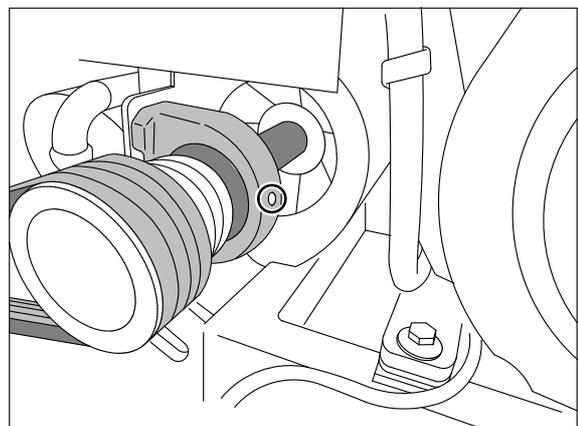
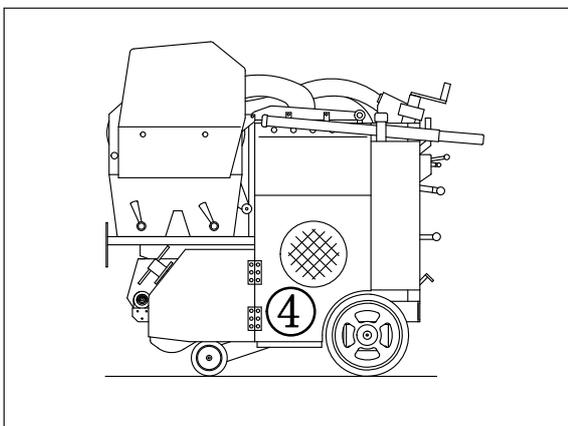


② 前輪アーム部ピローブロック 2ヶ所
前輪アーム部 2ヶ所



③ ボディーカバーを外します。
カウンターシャフトピローブロック

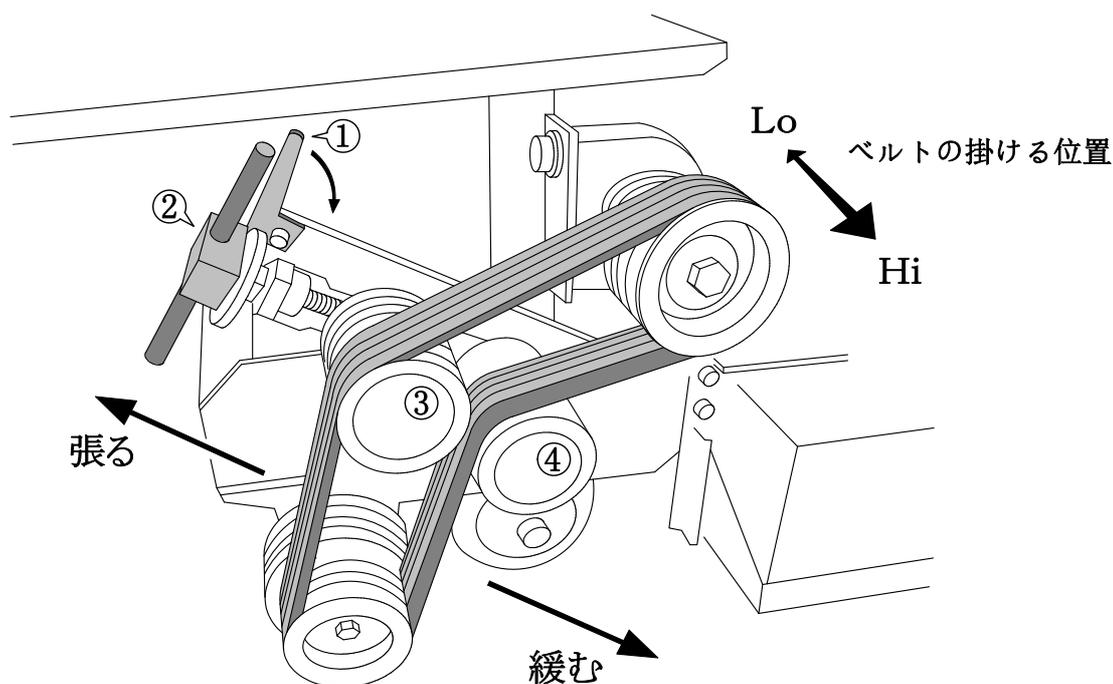
*プーリーの穴の位置に合わせてグリスを入れます。



④ ボディーカバーを外します。
カウンターシャフトピローブロック

ベルト交換手順

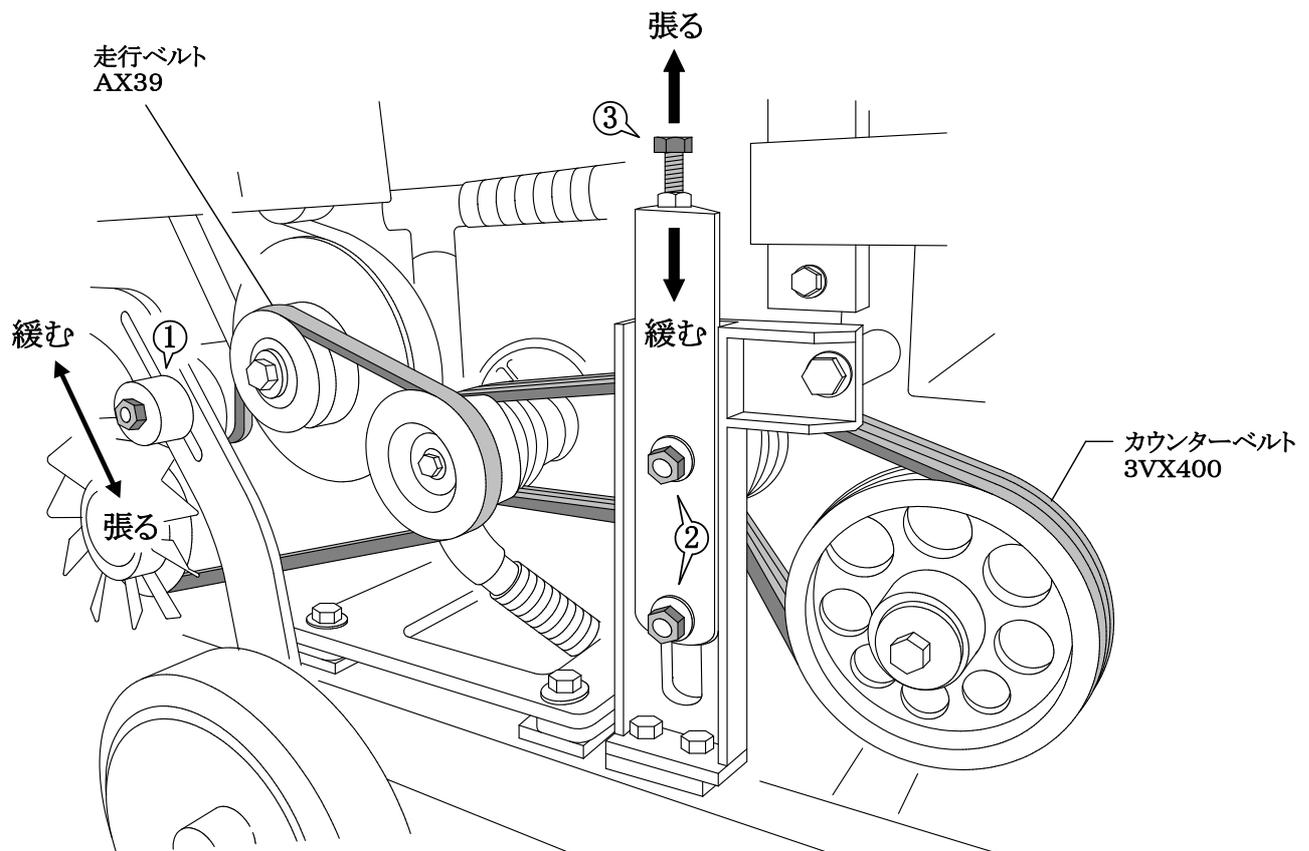
※ Bau690ではメインベルト(3VX-400)4本を掛ける位置でブレードシャフトの回転数を変える事ができます。



*ベルト交換・張り直し作業を行う時は、エンジンが冷めてから行って下さい。

- 1 ベルトサイドカバーを開け、ベルトカバーを外す。
- 2 ①部のレバーを矢印の方向に引き、②部のロックを解除します。
- 3 ②部のテンションハンドルを右に廻すと③メインテンションプーリー、④メインテンションヒラプーリーがスライドしベルトが緩みます。
- 4 ベルトの掛ける位置を変える。ベルトの交換をする。
 高回転：プーリーの外側にベルトを掛ける。
 低回転：プーリーの内側にベルトを掛ける。
- 5 ②部のハンドルを左に廻し③、④のプーリーをスライドさせベルトを張ります。
※ ベルトの張り過ぎに注意して下さい。
- 6 ①部のレバーを元に戻し、②部のハンドルを必ずロックして下さい。
 (振動によりハンドルが廻りベルトが緩むおそれがあります)

ベルト交換手順



*ベルト交換・張り直し作業を行う時は、エンジンが冷めてから行って下さい。

走行ベルト (AX39) 交換手順

- 1 ブレード側のサイドカバーを外す。
- 2 ①部のナット(対辺19)を緩める。
- 3 ①部のAテンションプーリーを上にもスライドさせ、ベルトの張りを緩め外します。
- 4 ベルトを交換したら、①部のプーリーを下にもスライドさせベルトを張り、①部のナットを締め付ける。

※ベルトの張り過ぎに注意して下さい。

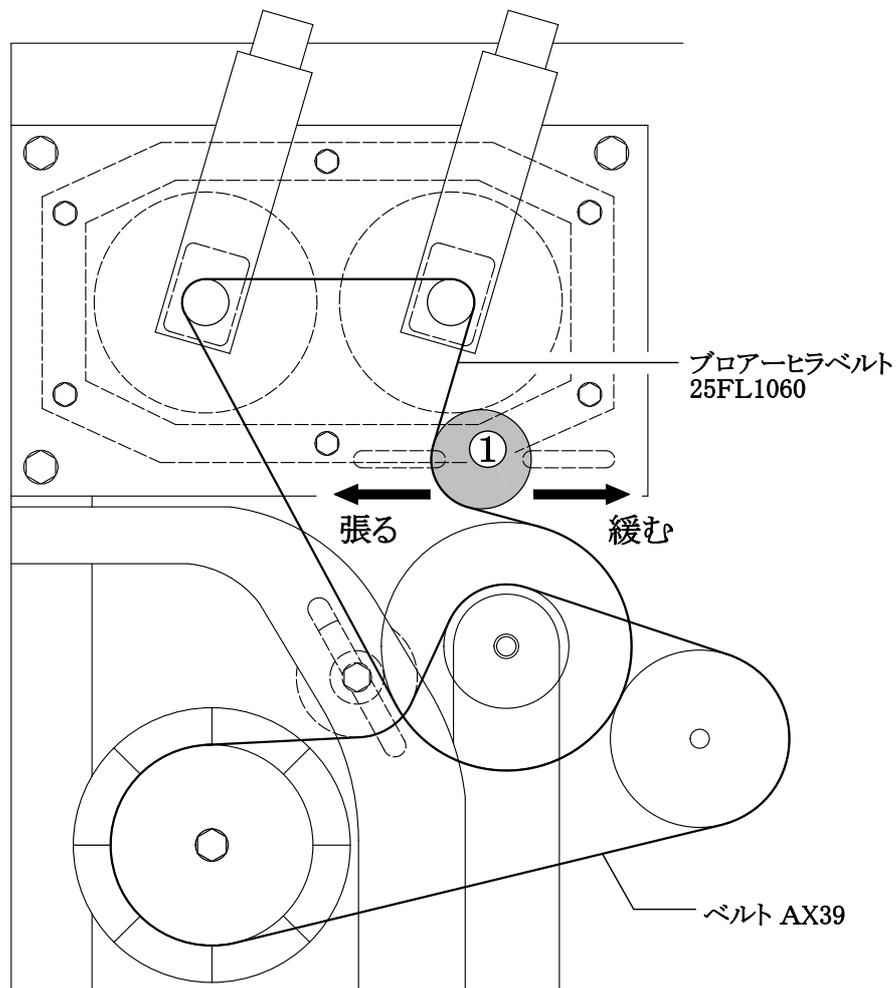
カウンターベルト (3VX400) 交換手順

- 1 ブレード側のサイドカバーを外す。
- 2 走行ベルト (AX39) 交換手順1～3を行う。
- 3 ②部のナット(対辺19)を緩める。
- 4 ③部のロックナット(対辺17)を緩め、ボルトを右に廻しベルトの張りを緩め外します。
- 5 ベルトを交換したら、③部のボルトを左に廻しベルトを張りロックナット、②部のナットを締め付ける。

※ベルトの張り過ぎに注意して下さい。

- 6 走行ベルト交換手順4を行う。

ベルト交換手順



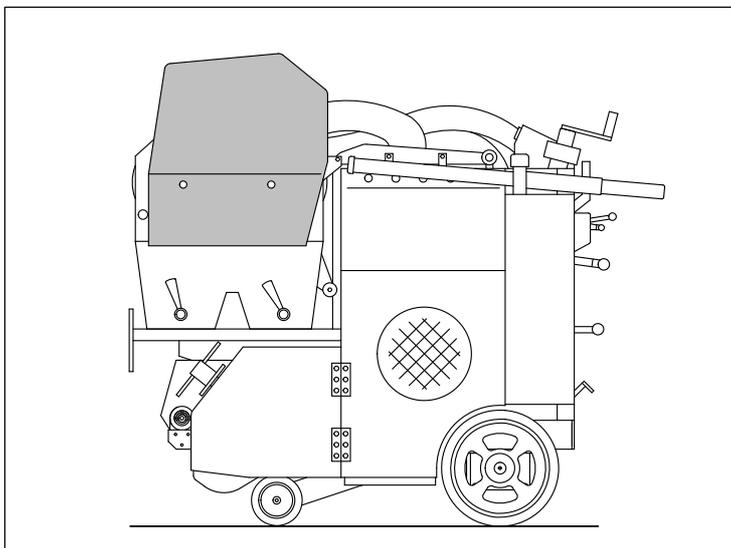
*ベルト交換・張り直し作業を行う時は、エンジンが冷めてから行って下さい。

プロアーヒラベルト(25FL1060)交換手順

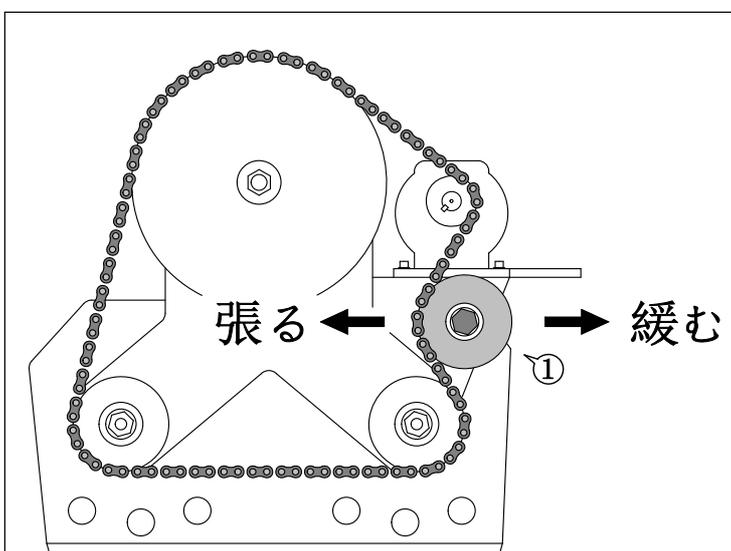
- 1 ブレード側のサイドカバーとトップカバーを外す。
- 2 走行ベルト(AX39)交換手順2, 3を行う。
- 3 ①部の内側にあるナット(対辺19)を緩めプーリーをスライドさせベルトを外す。
- 4 図のようにベルトを掛け交換したら、各プーリーのベルトの通りを合わせて下さい。
- 5 ①部のプーリーをスライドさせベルトを張り①部のナットを締め付ける。
※ベルトの張り過ぎに注意して下さい。
- 6 走行ベルト交換手順4を行う。

チェーン

集塵ボックス横にフィルター自動払落し用のチェーンが張ってあります。緩んでいる場合には、張り直して下さい。

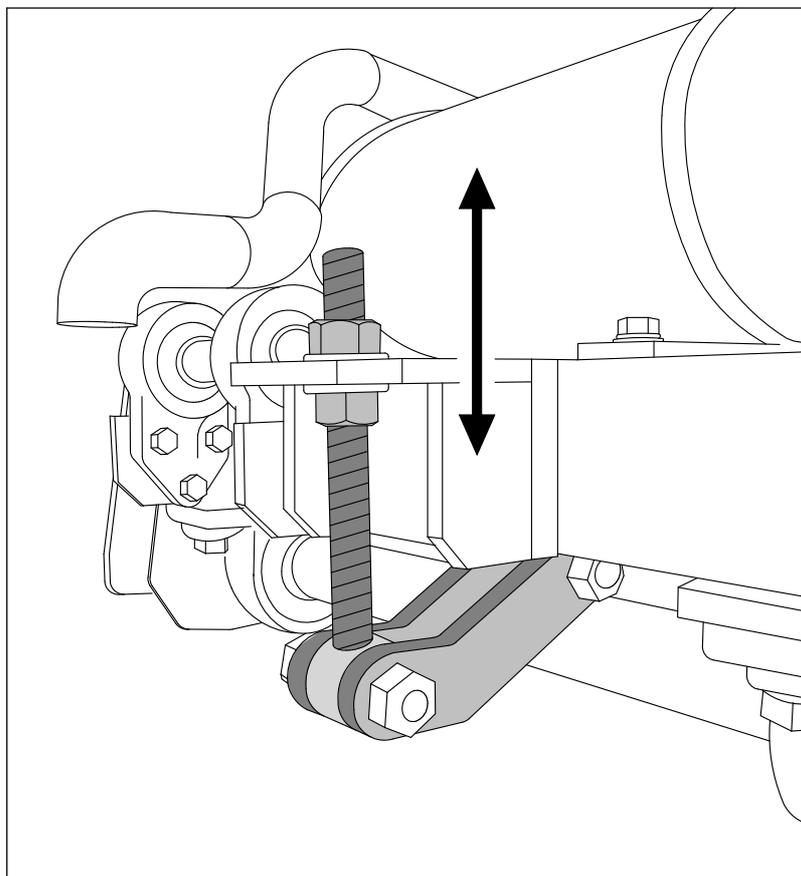


1 集塵ボックス横のチェーンカバーを外す。



- 2 ①部のボルト(対辺17)を緩める。
- 3 ①部のスプロケットを手で押し込みます。
- 4 ①部のボルト(対辺17)を締め付ける。

デプスストッパー調整



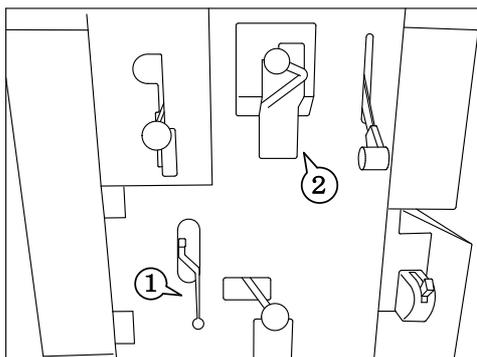
- 調整ボルトのナットを廻しボルトが上下することにより、切込み深さを変える事ができます。
- 調整ボルトが上に出れば切込み深さが浅くなります。
調整ボルトが下に出れば切込み深さが深くなります。
- 調整ボルトを動かした分の2倍切込み深さが変わります。
例) 調整ボルトを下に5mm動かした場合、切込み深さが10mm深くなります。

粉塵の取り出し・集塵袋の交換

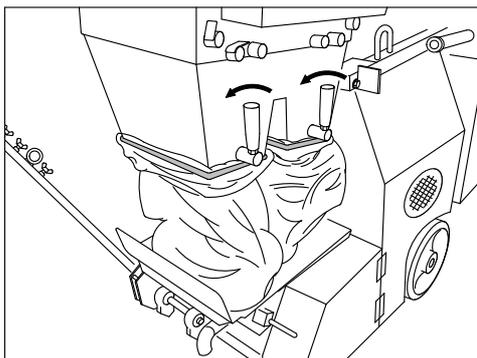
集塵袋交換目安

ブレード:3.5mm幅 深さ:5cm 切削:約50m

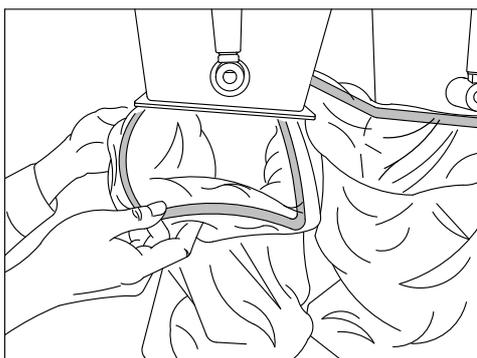
ブレード:10mm幅 深さ:5cm 切削:約15m



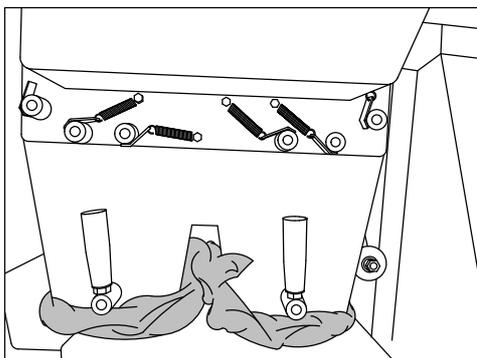
- ①の昇降切り替えレバーを下げて、②の油圧昇降レバーで集塵ボックスを上げます。



- 集塵ボックスの底板開閉レバーを動かし、粉塵を袋に落とします。

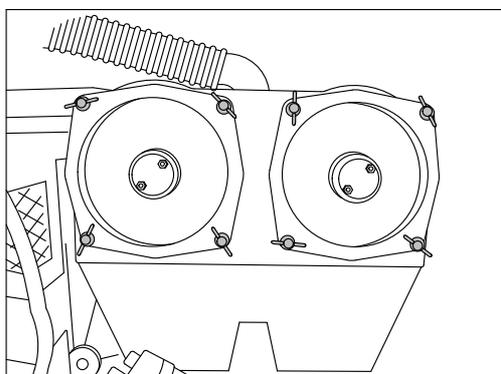


- 集塵袋を止めているゴムバンドを引っ張り袋を外します。
- 新しい袋を取付ける時は、袋の口にゴムバンドを付けて集塵ボックスにセットして下さい。
- 袋の交換が終わったら、集塵ボックスを下げて昇降切り替えレバーを上げて下さい。

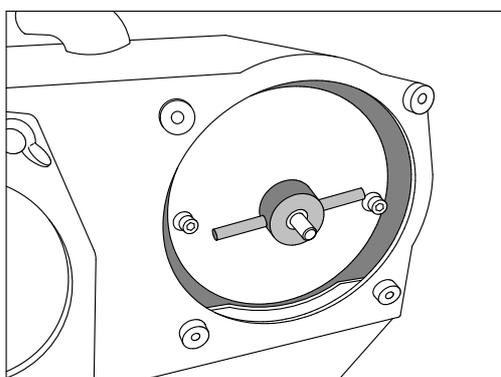


- * 集塵袋の垂れ下がっている部分をガイドローラー等に挟み込むと袋が破ける恐れがあります。集塵ボックスの隙間などに入れるなどして、袋の破れ・挟み込みに注意して下さい。

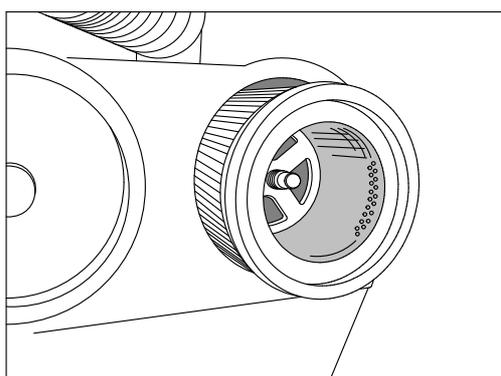
集塵ボックスフィルター取外し方



- 集塵ボックス横にある蝶ボルトを外し、外蓋を外します。



- 中に内蓋を止めているナットがあります。そのナットを外し内蓋を外します。



- 中のフィルターを引き抜く事ができます。
- * フィルターが抜き難い時は、フィルターを廻しながら引き抜いて下さい。

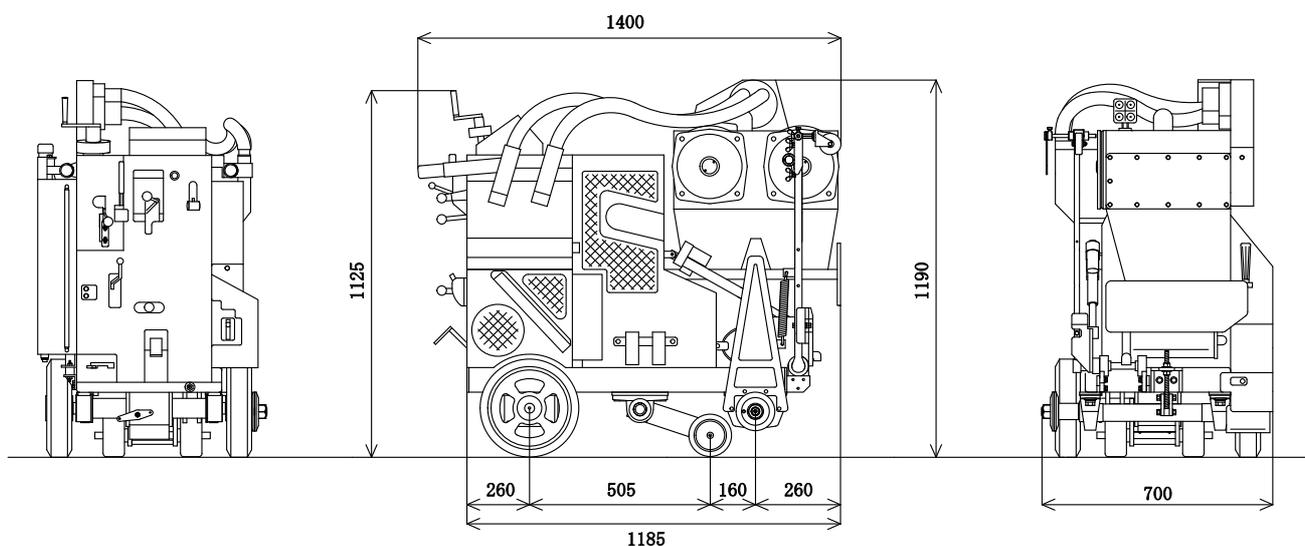
• フィルターの取付は、しっかり奥まで入れて上記と逆の手順で取り付けて下さい。

* フィルターは水洗いする事ができます。水洗いした時は、完全に乾燥した状態で集塵ボックスに取り付けて下さい。

Bau690 仕様書

型式	Bau690
エンジン	HONDA GX690 空冷4サイクルV型2気筒 688cc
最大出力	18KW(24PS)/3,600min ⁻¹
連続定格出力	14.7KW(20PS)/3,000min ⁻¹
変速方式	HI・LO ベルト掛け替え2段変速 エンジン回転数3000min ⁻¹ 時、出力軸回転数 HI:1465min ⁻¹ LO:878min ⁻¹
本体サイズ	1400L×700W×1190H
重量	470Kg
切断方式	乾式切断・アッパーカット方式
最大切削深さ	200mm(アスファルト)
深さ調節	油圧昇降式
走行	HSTレバー調整 前進:切削0~750m/h、廻送0~2.4km/h 後進:0~300m/h、廻送0~1km/h
集塵装置	円筒フィルター式、ブロアー吸気量4m ³ /min 集塵タンク容量:24Liter(12Liter×2) 切断距離目安:ブレードボンド巾4mm×切断深さ5cm時 40m
燃料タンク	10Liter
ブレードカバー	12",14",18", 22"

* 不断の研究開発により仕様等を予告なく変更する場合があります。



仲山鉄工株式会社

〒426-0066

静岡県藤枝市青葉町1丁目4番12号

TEL : (054) 635-1383

FAX : (054) 635-0418

URL : <http://www.nakayama-azz.co.jp>

E-mail : info@nakayama-azz.co.jp

お客様メモ

--